

会 議 記 録 (1)

会議名称	第3回 北本市立栄小学校規模等適正化検討協議会
開会及び閉会日時	令和元年9月26日(木) 午前9時30分から午前10時40分まで
開催場所	北本市役所会議室3-F
議長氏名	安田一也
出席委員(者)氏名	醍醐 隆、五味純子、佐藤利彦、林 信好、吉野道子、石塚富美江 西山 宏、針谷紀子
欠席委員(者)氏名	
説明者の職氏名	教育部長：原口 穰 教育総務課管理係長：山本一真
事務局職員職氏名	教育長：清水 隆、教育部長：原口 穰 教育総務課長：櫻井猛博、学校教育課長：坂口 修 学校教育課副課長：内田浩子、生涯学習課長：平井 巖
会議次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議題 (1) 北本市立栄小学校の規模等に関する適正化について ア. 第2回検討・協議整理結果について イ. 統合対象校の検討・協議について (2) その他 4 閉会
配布資料	1 次第 2 北本市立栄小学校規模等適正化検討協議会委員名簿及び事務局職員名簿 3 資料15 第2回検討・協議整理結果一覧 4 資料16 学校統合により生じる課題への対応(参考資料) 5 資料17 学校統合による通学距離の概要 6 資料18 北本市における小中一貫教育の推進

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
櫻井教育総務課長	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p>
安田会長	<p>(会長の挨拶)</p>
櫻井教育総務課長	<p>続いて議題に入ります。議事の進行については、安田会長にお願いします。</p>
	<p>3 議題</p> <p>(会長による議事進行)</p> <p>(1) 北本市立栄小学校の規模等に関する適正化について ア. 第2回検討・協議整理結果について</p>
安田会長	<p>はじめに、議題(1)「北本市立栄小学校の規模等に関する適正化について」のうち、ア. 「第2回検討・協議整理結果について」、事務局より説明をお願いします。</p>
山本係長	<p><資料15から16までによる説明：資料15 第2回検討・協議整理結果一覧、資料16 学校統合により生じる課題への対応(参考資料)></p>
安田会長	<p>事務局より、議題(1)のア. 「第1回検討・協議整理結果について」の説明が終了した。前回会議の意見、また、その意見を踏まえた適正化の方向性や意見措置等について、整理した内容が示された。 この整理結果の内容に関し、質疑はあるか。</p>
醍醐副会長	<p>資料16の中に記載する「通学路の安全確保に関する対応」について確認したい。 栄小学校は現在、1年生が3名、2年生に関しても、それほど多い人数ではない状況である。集団登下校に際し、登校時はある程度の人数が確保できることも見込めるが、下校時は学年によって終了時刻が異なるため、低学年になればなるほど、少人数での帰宅を余儀なくされる状況にあるかと思われる。 そうした幼い子供達の安全確保に関し、資料16の対応例にあるように、学校安全ボランティアに全てを委ねるような方向性、あるいは、学校職員に依頼するという考え方は、現在の流れに逆行するのではないかと考えられる。 こうした部分に関し、市教委としてどのように検討しているものか確認する。</p>
原口教育部長	<p>学校安全を担う人員確保に関し、ボランティアにより確保していくものか、あるいは有償により確保していくものか、検討が必要であると考えている。資料16の対応例に倣い、人材の養成・配置を含む見守り体制の整備について、今後検討を進めていく。</p>
林 委員	<p>前回会議でも確認してきたが、適正化の方法に関し、通学区域審議会</p>

	<p>の「答申」と、この会議の「協議結果」が異なることの有無について確認する。これまで色々と議論してきたが、「答申」と同じ方向性となることに関し、果たしてそれでいいのかなと考えている。</p> <p>様々な状況・課題に対し、「検討していく」という回答のままで、最終的に教育委員会で決定していく流れでは、我々の見えないところで物事が決定されていく恐れがあると感じている。</p> <p>また、通学距離が延びることに対する安全確保の問題も残っている。このあとの議題資料の中で、統合した場合の通学路・距離の概要が示されているが、統合対象校の候補となる石戸小学校と南小学校とでは、その距離の差は大きいものと考えられる。</p> <p>この距離要件に関し、「答申」の中でも、弾力的対応に努めるよう記されているが、その方法に関して、具体的に見えてこない状況である。</p> <p>今後、地域に対する意見交換会を開催していただく予定だが、開催連絡を通じて地域の人達の反応を見た限り、この学校統合に納得するような声が、なかなか出てきていない状況である。やはり、「栄小学校を何とか残してほしい」といった声が相変わらず強く出ているものとなる。</p> <p>あらためて「答申」と「協議結果」の関係性、そして通学の安全問題等について、もう一度確認する。</p>
原口教育部長	<p>栄小学校の今後のあり方を検討していく上で、根幹とするのは、「子供達の教育環境を整えるため、どうすることがベストなのかを考える」ということである。</p> <p>林委員のご指摘のとおり、通学距離の問題をはじめ、地域との関係性の継続、今までの小中一貫教育の取組の成果の継承など、色々と留意・配慮すべき事項は沢山ある。</p> <p>通学距離の問題は、今回の栄小学校の案件に限らず、現在の石戸小学校児童の通学距離の長さの問題等々もあり、そうした色々な課題を、様々な観点から検討していく必要がある。</p> <p>栄小学校のあり方については、教育委員会で最終決定を行うものとなるが、それに際しては、通学区域審議会の「答申」、そして、この検討協議会の様々な観点からの意見に基づく「協議結果」、この2つの内容を踏まえながら、最終決定する流れとしている。</p> <p>通学区域審議会と検討協議会のそれぞれの会議の中で、様々な立場からの意見と議論のもと、その方向性を導き出していることから、「答申」と「協議会意見」は別なものとして、それぞれまとめている。</p>
安田会長	<p>2つの会議とも、栄小学校の子供達の教育環境を整えることを一番のポイントとし、様々な立場から提出された意見をまとめ、教育委員会へ報告するという事で、事務局より説明があった。</p> <p>この議題(1)のアに関しては、資料15の整理結果の内容について了承するものとし、資料16を参考資料として取り扱うことで、次の議題へ進むこととしてよいか。</p> <p style="text-align: center;">(特に意見なし)</p>
安田会長	<p>資料15の整理結果の内容については、了承とする。</p> <p style="text-align: center;">(他に意見なし)</p>
安田会長	<p>この議題(1)のアについては終了する。</p>
安田会長	<p style="text-align: center;">イ. 統合対象校の検討・協議について</p> <p>続いて、議題(1)のイ. 「統合対象校の検討・協議について」事務局よ</p>

原口教育部長	<p>り、説明をお願いする。</p> <p><資料17から18までによる説明：資料17 学校統合による通学距離の概要、資料18 北本市における小中一貫教育の推進></p>
安田会長	<p>事務局より、議題(1)のイ「統合対象校の検討・協議について」の説明が終了した。</p> <p>栄小学校との統合対象校の候補として、石戸小学校及び南小学校までの通学距離の概数が示された。また、本市の小中一貫教育の推進として、各学校間の関係性も示された。</p> <p>これらを踏まえ、通学区域審議会の答申及び事務局が提案する「石戸小学校」への学校統合により適正化を進めていくことについて、質疑等はあるか。</p>
石塚委員	<p>資料17-1の表の中では、各地区から石戸小学校までの通学距離と、南小学校までの通学距離のそれぞれの概数について示されている。</p> <p>いずれも、「北本市立学校の適正規模等に関する基本方針」に記す小学校の望ましい通学距離（概ね3km以内）の範囲内となるものだが、単純に距離の比較だけではなく、子供達の安全面や負担等についても考える必要がある。単なる数値の比較だけでは、意見や判断が偏ることについて懸念される。</p> <p>石戸小学校へ統合することが望ましいと考える事務局提案に関しては、様々なことを考えた上でのものと推察するが、この資料内に示す数値の受け取り方は、人によってそれぞれ異なるものとなる。</p> <p>現在の栄小学区の通学距離は比較的コンパクトなため、保護者の方々は、統合により通学距離が延びることの不安があると思われるが、通学距離が比較的遠い石戸小学校の子供達を見た場合、一ヶ月もすると、1年生の子達も馴れてくるため、距離上における子供達の体力・負担面に関しては、大丈夫なものかとも思われる。</p> <p>また、資料17-2の通学路の概要について、実際には、もう少し距離が短くなることも考えるため、この資料は一つの目安として捉えていただくよう、保護者等への説明に際し、誤解の無いよう伝えていただくことが大事と考える。</p>
安田会長	<p>通学に関し、単に距離の長短だけで判断するものではないという意見が提出された。</p>
西山委員	<p>事務局説明にあった「学校4・3・2制（小中一貫教育）」の取組について、少し話しをさせていただく。</p> <p>現在、全中学校区で進められているこの取組は、最初に西中学校区に研究委嘱され、「かば桜学園（石戸小・栄小・西中学校）」として、これまで研究・取組を進めてきたものとなる。</p> <p>先ほどの資料16の中でも、「児童生徒にとっての環境変化の対応」として、学習規律等に関するルールを統合対象校間で調整していく旨が記されているが、「かば桜学園」の取組によって、この部分に関しては、既に確立されているものと考えられる。</p> <p>「かば桜学園」として、小学校でも中学校においても、「授業での約束事」や「3校でこうして行きましょう」という共通のルールがあり、それを土台に進めてきたことから、「環境の変化」という課題に対しては、石戸小学校と栄小学校の学習の進め方に違和感はなく、統合後においてもスムーズに進められるものと思われる。</p> <p>他の中学校区においても、こうした取組を進めており、その取組の差に大きな開きがあるものではないが、一緒に研究・取組を続けてきたという点から考えると、今までと同じ授業が進められることは、子供達にとって大きなメリットと思われる。</p>

	<p>このため、統合対象校に関しては、石戸小学校とすることが、望ましいものと考えられる。</p>
<p>安田会長</p>	<p>西山委員より、小中一貫教育の観点から、石戸小学校へ統合することが望ましいとする旨の意見が提出された。他の委員の考えはいかがか。</p>
<p>醍醐副会長</p>	<p>統合対象校を選択するに際し、資料16の3つの対応項目を見た場合、やはり懸念されるのは、「通学路の安全確保に関する対応」の部分になる。</p> <p>石戸小学校と南小学校までの通学距離を比較した場合、その距離の差は否めないが、そのほかの教育環境のメリットを踏まえると、個人的には、石戸小学校と統合することが望ましいものとする。</p> <p>石戸小学校と西中学校の子供達の数・クラス数ともに、他校と比較した場合、その数は決して大きいものではないが、小規模校ならではの「きめ細かな教育」といったメリットが期待できると思われる。</p> <p>現代社会における子供達の環境を考えた場合、一方的に進めていく授業というのはなかなか難しく、ICTを利用した「反転学習（授業）」というものが、クローズアップされている時代ともなる。</p> <p>少人数学級による「きめ細かな教育」、個に応じた対応的な授業については、今後も必要になってくると思われ、こうした部分を含めた場合、比較的人数の多い南小学校と統合するよりは、これまでの「かば桜学園」の実績と「きめ細かな教育」のメリットが活かされることを踏まえた上で、統合対象校を石戸小学校とすることが、ベストな選択であるものと思われる。</p>
<p>安田会長</p>	<p>保護者の視点から、子供達の学習環境のことを考えた上での意見と受け止める。同じく保護者意見として、五味委員の考え方はいかがか。</p>
<p>五味委員</p>	<p>北本団地から外に出る機会が少ない子供達もいるため、通学距離が延びることや通学路の安全面について心配な部分がある。学習面に関しては、統合に伴って、これまでと進め方が変わることに心配もある。</p>
<p>安田会長</p>	<p>これまで通り慣れていたところから、他の地域へ変わるということは、実際問題として、不安な部分が多いものと思われる。</p> <p>先の議題(1)のAの中での事務局回答にもあるとおり、安全確保に関する検討・対応を進めていくよう、是非願います。</p>
<p>林 委員</p>	<p>過日、栄小学校の運動会を見学させていただき、来年度の入学児童の30メートル走を見ながら、やはり人数が少ない状況は、寂しいものと感じた。</p> <p>しかし、少ない人数の中でも、子供達が一生懸命に競技をし、助け合っている姿を見て、素晴らしいこととも感じた。</p> <p>例え、こうした状況が何年か続いたとしても、やはり栄小学校の位置付けというのは、地域に根差しているものであり、存続してほしいという想いを、あらためて強く感じたところである。</p> <p>ただ、学校教育の中身については、余程のことがない限り、地域から意見するつもりはなく、過去の色々な問題や制度的な変化・流れは知っているものの、「かば桜学園」の例を挙げられても、正直、我々地域の人間にとっては、あまりかかわりがないものである。</p> <p>統合による環境の変化について、例えば、資料16の中で「通学路の安全点検を教職員や保護者で定期的実施し、」と記されているが、これは今までも叫ばれてきたことである。</p> <p>過去の安全点検というのは、物質的なものに対するものであり、例えば、「この状態が危険」とか、「この物が危険」といった具合であった。しかし、今の通学路の安全点検に関しては大分変わってきており、</p>

	<p>色々な社会的な背景から、安全性の見方も大きく変わってきている状況である。</p> <p>当然、教職員や保護者だけで実施できるものではなく、地域の協力を得て、一緒に安全点検をするということになるが、地域の高齢化が進む状況から、資料に記すように簡単に実施できるものではない。スクールガードリーダーのような体制づくりをしなくても、安全に通学できる状況が本来の姿であるものだが、この安全面の課題に関し、もう少し考えていく必要があると思われる。</p> <p>また、学校と地域との関係が希薄化することが懸念される。今までは、学校教育は学校内で行い、外へ一歩出れば、地域という社会が存在し、こうしたそれぞれの役割分担が崩れてしまうと、新たな問題が起きる可能性もあるため、そうしたことが起こらないよう位置付けていくことが大事なことと思われる。</p> <p>こうした色々なことを踏まえると、基本的には、栄小学校は残してほしいものである。</p> <p>それから、通学距離に関しては、石戸小学校と南小学校までのそれぞれ距離に大きな差がある。また、距離だけではなく、子供達や地域の視点に立って見た場合、石戸小学校に向う道路には白線歩道が殆どないものと思われる。一方で、南小学校に向かう道路には歩道が整備され、距離も短いものとなる。</p> <p>こうした通学の安全性を考えてみた場合、統合対象校を南小学校とする選択肢も大きく出てくるかと思われる。このようなことも含めて、もう少し細かく検討する必要があると考えられる。</p> <p>今後、地域に対する意見交換会が3回ほど開催される予定となるが、この意見交換会において、どこまでの資料が提出されるか気になるところである。</p> <p>我々も、通学区域審議会の開催当時から、通学距離を個人的に計測し、色々と考えてきたが、今回の会議資料を見たところ、異なる部分もあったため、どこまでの情報を公開していただくものか、あらためて伺う。</p>
櫻井教育総務課長	<p>意見交換会については、栄小学校の保護者及び栄小学区の地域の方々を対象として開催するものとなる。その際の資料に関しては、この検討協議会で使用した主だった資料を配布し、これまでの検討状況などについて説明する予定となる。</p>
佐藤委員	<p>先ほど、醍醐副会長が話された統合のメリットに関しては、確かに、少人数学級の方が先生方の目が行き届き、良い環境とも思われる。一方で、通学の問題・距離が延びることに対し、どういう形で安全性を高めていくのか、その検討を深めていく必要があるとも考えている。</p> <p>子供達にとって、良い教育環境を整えていくことが最大の焦点であることから、この点に立脚して検討を進めることが良いのではないかと思う。</p>
吉野委員	<p>やはり子供達の安全が大事である。今、色々な事件・事故があり、人の目に付かないところで不可解な事件も起きている。通学路にしても、実際に歩いて見て、人の目がちゃんと行き届くような状況であることが望ましいと考える。</p> <p>自転車も含めた交通安全という面からも、子供達だけでなく、地域の大人達同士も目が向くよう、資料16の中に記されているとおり、教職員や保護者をはじめ、地域全体で見守る体制を整えていくことが重要と考える。</p> <p>学校教育の部分については、市教委や学校現場の人達に任せて、子供達の安全を全体で考えていきたい。</p> <p>子供達が帰宅した際、保護者の方が家にいない場合もあり、そうした</p>

<p>安田会長</p>	<p>家庭は、学童や放課後子ども教室を活用していると思われるが、こうしたことも踏まえ、最後まで子供達の安全確認ができる体制が整えられたら良いと思う。</p> <p>そのためには、地域全体で見守る体制づくりが必要となるが、どうやって住民を巻き込んでいくものか、その部分が課題であり、とても難しいこととも考えられる。</p> <p>栄小学区の形は、学校と団地の間で、人が行き交うような形となっているが、それが三三五五のようになっていくと、互いに目が行き届かない状況になってしまう。</p> <p>色々な方法を試しながら、最終的には皆から「安心だよね」という声が聞かれるようになれば、本当に幸せなことだと思う。今後、その部分を検討していただければ幸いである。</p> <p>学校の統合後においても、安心・安全な学校づくりが必要と考える意見が提出された。</p>
<p>安田会長</p>	<p>栄小学校の子供達を預かる校長の立場からの考えとして、私からも意見させていただく。まず、統合対象校については、私も石戸小学校との統合が望ましいと考える。</p> <p>冒頭のあいさつの中で触れた「リトルティーチャー（中学校生徒による小学校児童の学習支援の取組）」について、もう少し話しをさせていただくと、今日、栄小学校に訪れた西中学校3年生については、全て石戸小学校の卒業生であった。</p> <p>しかし、出身校に関係なく、とても円滑に取組を進めており、この様子を見た時に、あらためて資料18の「学校4・3・2制」による小中一貫教育が根付いているものと実感した。</p> <p>小・中合同の「あいさつ運動」の時にも、栄小学校OBの子と石戸小学校OBの子がいて、垣根を越えて取り組んでいることから、このことは、今日までの「かば桜学園」の研究・取組の成果であると感じている。</p> <p>また、資料18の図の中で、4・3・2制の括りを色で表しているが、小学校から中学校にかけて、滑らかに色が変化していく表現を見たときに、小学校から中学校の生活に自然になって行く本市の様子を、本当によく表していると思った。</p> <p>こうした、小学校区の垣根を越えた取組や中学校への滑らかな接続について、西中学校区の中では実現できていることから、同じ中学校区となる石戸小学校との統合が、望ましいと考えるものである。</p>
<p>針谷委員</p>	<p>事務局説明にもあった「かば桜学園」の取組・推進という部分は納得するものである。また、小中一貫教育に限らず、小小連携（隣の小学校との連携・交流）も同時進行で行われているため、先ほどの安田会長の意見にも納得するものである。</p> <p>過日、栄小学校の運動会を拝見したところ、とてもアットホームで、心温まる素晴らしいものであった。本当に子供達一人一人がとても大事にされており、これは小規模校ならではのものと感じた。</p> <p>少人数で馴れてきたこの子供達が、大きく状況を変えずにスムーズに統合できる方法としては、やはり、少人数の良さを活かしている学校との統合が望ましいと思われる。</p> <p>距離的には、南小学校の方が近く、各委員から意見のあった安全確保に関しても、通学の必須条件となるため、こうした部分を今後考えていくものとして、基本的には、石戸小学校との統合の方向性とするものである。</p> <p style="text-align: center;">（他に意見なし）</p>

安田会長	<p>委員の皆様の方の意見を踏まえ、この検討協議会においても、通学区域審議会の答申や事務局提案のとおり、「石戸小学校」へ統合する方向性とし、統合後も、安心・安全な学校づくり、そして地域との結びつきに考慮した手続を進めることが望ましいものと考えてよいか、あらためてお諮りする。</p> <p>(委員：異議なしの声)</p>
安田会長	<p>それでは、反対意見もないため、この検討協議会においても、「栄小学校」を「石戸小学校」へ統合する方法で適正化を進めることについて合意する。</p> <p>事務局においては、この検討協議会の中で、これまで提出された意見等を十分に踏まえ、以後の手続を進めるようお願いする。</p>
山本係長	<p>了解した。</p>
安田会長	<p>この議題は終了する。</p>
	<p>(2) その他</p>
安田会長	<p>続いて、議題(2)「その他」について、委員又は事務局から発言を求める。</p>
山本係長	<p>この会議の検討・協議結果をまとめ、教育委員会へ報告する。</p> <p>通学区域審議会の答申と、この会議の検討・協議結果の両方を踏まえ、適正化の方法の最終決定を教育委員会で行うものとなる。</p> <p>また、決定内容に関し、市長及び市議会への報告を予定するほか、保護者・地域の方々に対し、説明会等により、手続の進捗状況を随時情報提供していく予定となる。</p> <p>学校の設置に関する関係条例の改正も必要となり、市議会の議決事項となることから、様々な手続・準備が完了するまで時間を要することとなる。</p> <p>その中で、この検討協議会は、7月の委嘱より2年間の効力を持つ会議となるが、大きな問題等の発生が無い限り、本日の会議をもって一旦の終了とする。</p> <p>会議招集の予定はないものの、委員の皆様方には、会議形式に拘らず、引き続き、色々と御意見・御助言等を賜りたいと考えている。</p>
清水教育長	<p>これまで色々と貴重な意見をいただき感謝する。</p> <p>事務局説明のとおり、今後、教育委員会で審議していく予定となるが、それに際し、この会議で様々な立場から提出された意見をまとめ、教育委員会へ報告させていただく。</p> <p>大変難しい課題であると同時に、こうした検討は、本市において初めてのものとなるが、子供達にとって、「本当に良い学校とは何か」ということを念頭に置きながら考え、いただいた意見をなるべく反映できるよう、最大限努力していく。</p> <p>課題は色々と残るものの、通学の安全面などに関しては、現在の通学路の再点検を行うなど、万全を期して対応していく。</p> <p>また、「コミュニティスクール」を推進し、地域と共にある学校づくりを目指していくため、引き続き、地域の方々には、ご理解とご協力をいただきたいと考えている。</p>
安田会長	<p>その他質疑はあるか。</p>

安田会長	(特に意見なし) この議題は終了する。
醍醐副会長	4 閉会
議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。 令和元年 10 月 16 日 会長 <u>安田 一也</u>	